

特別支援学校のシラバスの検討

— 非教務分掌担当教員を対象としたアンケート調査の結果 —

〔背景〕

学習指導要領改訂を背景に、指導と評価の一体化とカリキュラム・マネジメントが求められている。大阪府立支援学校では「指導と評価の年間計画（シラバス）」の作成・提出が行われている。

〔目的〕

大阪府立支援学校におけるシラバスの作成・運用・効果について、非教務分掌担当教員の認識を明らかにする。前年度の教務主任等調査と比較し、校内支援の焦点を検討する。

〔方法〕

・アンケート：基本情報5項目＋シラバス17項目（5件法／2件法）
・分析：2025年度48件（24校）
・比較：2024年度16件
・期間：2025/12/17～2026/1/9（QR回答）
・5件法＝平均、2件法＝「はい」割合

〔結果〕

- ①-1-2 「実態に合わせる」は弱まった。
・児童生徒の実態 3.31（前回4.19）
・学校の実態 3.42（前回4.31）
- ⑤ 「指導要領に当てはまらない授業」が前面化
当てはまらない授業内容がある
2.81（前回1.94）
- ⑥ 「作れない教科」がある—教科の壁が顕在化
作成が難航する特性のある教科がある
3.94（前回3.00）
- ⑧ 理解のばらつきは4点台—運用の土台が揺れる
・理解のばらつき 4.02（前回4.25）
・意義理解が浅いまま改訂されるケース
3.33（前回3.19）
- ⑨ 「評価とつなぐ」は強い（9割突破）
・個別の指導計画・評価とリンク「はい」
81.2%（前回56.2%）
・三観点が成績等に反映「はい」
91.7%（前回68.8%）
- ⑬ 「授業の質を支える」「要領理解の変化」は微減
・授業の質を支えている 3.33（前回3.69）
・要領への意識に変化 3.23（前回3.75）
・赴任教員の授業検討の基 4.08（前回4.12）

シラバスの 作成 について	今回	前回	差
①-1 児童生徒の実態に合わせてシラバスを作成している	3.31	4.19	-0.88
①-2 学校の実態に合わせてシラバスを作成している	3.42	4.31	-0.90
⑤ 指導要領の内容に当てはまらない授業内容がある	2.81	1.94	0.88
⑥ シラバス作成が難航する特性のある教科がある	3.94	3.00	0.94
シラバスの 運用 について	今回	前回	差
⑧ シラバスの理解に教員間でばらつきがある	4.02	4.25	-0.23
⑩ シラバスの意味や意義を深く理解していない状態で改訂されているケースがある	3.33	3.19	0.15
⑨ シラバスの内容が個別の指導計画やその評価とリンクしている	81.2	56.2	25.0
⑪ シラバスに明記されている三観点は成績や個別の指導計画に反映されている	91.7	68.8	22.9
シラバスの 効果 について	前回	今回	差
⑬ 授業の質を支えている	3.33	3.69	-0.35
⑭ シラバスの検討を通じて、教員の学習指導要領への意識に変化が見られる	3.23	3.75	-0.52
⑮ 赴任してきた教員にとって授業内容を考える基となっている	3.12	3.50	-0.38

〔考察〕

今回の回答者（非教務分掌担当教員）は、日ごろから授業の準備や評価の作業をする立場である。そのため、「指導要領に当てはまらない授業がある」「シラバスが作りにくい教科がある」といった“困りごと”が見えやすかったと考えられる。

〔シラバス運用の校内支援について〕

提案	内容
書き方の“見本”をそろえる	どの教科も「ここまでは書く」という最低ラインと見本を用意することで、作成に迷う時間が減るのではないかと考えられる。
判断の材料をセットで渡す	「どれを根拠に書けばよいか」を一つにまとめておく（学習指導要領の当該箇所、学校としての書き方ルール、評価観点の例）。
短い時間で困りごとを共有	教科会などで10分でもよいので、「作りにくいところ」「当てはまらないところ」を持ち寄り、解決例を少しずつ増やす。